の病院で長女「江美」が誕生した。<我が家はテント>の影響は，わが一家にも及んだ。生後２週間の江美を後座席にのせて，英仏海峡を越えてフランスをドライブ。生後一カ月目に，長女は富士山頂ほどの高さのユングフラウ・ヨッホの氷河上にあがった。彼女は高山病にかかるどころか，おなかが空いたことを知らせる為に，元気に泣くほかは，スヤスヤと眠って，ヨーロッパの観光客をびっくりさせていた。

それから一年近くがすぎて，今，私達一家は，東京郊外の団地に住んでいる。江美も天才的いたずらに育ち，朝から晩まで彼女の世話にあけくれている。しかし，子持ちの身分は私だけではなかった。お茶大の同期生の間でも，２・３年前の結婚ブームに引き続いて，今はベビー・ブーム。舞い込む手紙もベビー・ギャングの動作に一喜一憂しているママさんからのものが多くなった。同じ環境下の人間は共感度も強い。はじめは私も手紙を受け取る度にほほえましくも，嬉しくもあった。しかし，時が経つにつれて，「本当はこれでよいのだろうか」と疑問をもちだした。この調子では，数年後，教育ママ，ママゴンのブームが訪れないとは限らない。<良妻賢母>は我が大学の伝統と聞くが，新しい価値観が求められている昨今，私達ママ族も新しい母親像を考えなければならないような気がする。私は再びシンプソン夫人とその一家を思い起す。彼女の生き方こそ，新しい母親像の一つを示しているのではないだろうか。

（１１回生）

# 地理教育雑感

平　田　茂　子

高等学校で地理を教えはじめて，まもなく丸３年になろうとしています。その間に体験したこと，特に地理学習についての感想をこの機会に綴ってみようと思います。

従来，一般には洋の東西に関するいろいろな知識を伝授するのが地理であると考えられていたようです。私が高等学校時代に受けた人文地理の授業もその域を脱していなかったと記憶していますし，教科書にそってそれに忠実に教案を作成していた初めの頃の私の授業も，自然環境の学習を別にすると，多少その傾向があったことを認めなければなりません。

しかしながら，新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・映画等のマス・メディアが高度に発達した現代においては，そういった単なる雑学的知識のおしつけが主体を占める地理の授業は他の教科と較べて生徒からそっぽを向かれてしまうとしても，それは当然のことであって，私は次のような点に注意して授業を進めるように心がけています。

他の教科についても言えることでしょうが，地理学習の内容は，現実の私達の生活，社会と密接に結びついたものでなければならないと思います。私は，新聞の切抜きや雑誌の記事を教材としてよく用い

ますが，それらやその他のマス・メディアによる種々の知識を資料として整理して，生徒に与え，そういう資料をとおして生徒自身に問題を考えさせるようにしたいと考えています。例えば，日本の工業の学習においては，最近では毎日のようにマスコミを賑わしている公害の問題を取り上げ，それと関連させて授業を進めるのも一方法ですし，又A・A諸国の学習の場合には，ベトナムやナイジェリア，ビアフラ，アラブの難民等の問題のようなトピックを取り入れてA・Aグループの現状や問題点を考えさせながらそれらの地域の認識を深めるのも一方法であると思います。このように現実の社会と密接に関連させて授業を進めることは，生徒に授業に対する興味をいだかせることにもなると思います。

次に，地理の学習では当然のことですが，私は，どの単元においても必ず地図を併用することにしています。単に，種々の地図についての作成方法や，地図の知識，地図の見方等を教えるだけではなく，統計地図の作成や白地図の作業等を積極的に授業に取り入れることも大切であると思います。これも又多くの生徒に授業に対する興味をそそることになると思います。

生徒自身が楽しいと思う授業が必ずしも良い授業であるとは言えませんが，生徒に，教科に対して興味をいだかせることは授業を進めていく上で大切なことであり，そのための努力はなされるべきであると思います。それ以前に，地理の教師自身が地理学習の意義についての確固たる認識と，それに対する自信と興味を持つことが大切であると思います。　（１２回生）

# 近　況　報　告

定　方　和　子

生まれてはじめて，家族と離れた，見も知らぬ秩父での下宿住まいも，もう4年を過ぎようとしています。

「秩父の山奥（くやしいけれど秩父という言葉の次には，必ず山奥という言葉がついてまわります。）なんかにまわされないように気をつけろ。」と恩師から忠告を受けた折も折，なんたる身の不運，まさかこの私が行くことになるとは！　東京を離れる当時は，それこそ悲愴な覚悟で出発したものでしたがそれも過去のことになりました。日がたつにつれて，生徒がかわいくなって（この気持はなってみなければわかりません。）結局通算4年，それも私にしてみれば，ちっとも長い期間ではないから不思議です。

秩父へ行くことだけでも私にとっては大事件なのに，赴任した学校も今様に言えば，アッとおどろく……でして，創立2年目，校舎も校庭も何もない仮住まい，いるのは生徒と先生だけ，図書の本もまさに最初の一冊からそろえる有様でした。おまけに大部分の先生が経験のない新卒者で，それこそみようみまねで試行錯誤の連続でした。が，みな，なんとか新しい学校をつくりあげようと校長以下，真剣